足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

第２回鳥類部会

◎足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第２回鳥類部会が平成 19 年６月１４日に福井厚生年金会館にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶

足羽川ダム工事事務所　岩崎福久所長からの挨拶

出席委員

第２回鳥類部会では、鳥類を担当分野とされる４人の委員にご出席いただきました。

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 鳥類部会　委員名簿

氏　　名		現　職　等
松村　俊之	まつむら　としゆき	福井県自然保護課　主任
久保上　宗次郎	くぼがみ　そうじろう	猛禽類研究家
林　武雄	はやし　たけお	日本鳥類保護連盟　専門委員
上木　泰男	うえき　やすお	日本鳥類保護連盟　専門委員

第２回鳥類部会での審議骨子

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第２回鳥類部会では、次のような議事が審議されました。

Ⅰ．事務局からの報告

事務局より、以下の事項が報告されました。

・第１回鳥類部会での委員からの指摘
・治水専用（流水型）ダムの事例
・一般鳥類の予測、評価の考え方
・生態系上位性の予測、評価の考え方

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

項目	委員からの意見	事務局回答
生態系上位性（陸域）の予測手法	クマタカの生息適地の解析にあたっては、使用するデータの精度に留意する必要がある。また、解析の根拠となるバックデータを見せてほしい。	詳細データを提示する。
生態系上位性（河川域）の予測手法	ヤマセミの影響評価にあたっては、営巣地を押さえておくことが重要である。	調査地域全域において営巣地踏査を実施している。
	調査地域が広いため全域の調査は不可能、調査対象区域を絞った調査が必要だと思う。	調査地域で確認されたつがいの分布状況を踏まえて、効率的な調査を実施している。
	ヤマセミの餌となる魚類の生息状況との関連についても検討する必要がある。	今後、影響予測を行う中で整理していく。
	ヤマセミの巣への侵入ルートについても整理しておくこと。	
	現地調査および影響検討の結果が実態と合っているかの確認が必要である。	できる限り定量的な調査・予測手法をとり、結果の検証を行っている。